



武蔵野

学校だより NO. 4
令和 8 年 7 月号
昭島市立武蔵野小学校
校長 大河原 博



武蔵野小 HP



失敗やルールから学ぶ、「たくましさ」

校庭の木々が濃い緑に変わり、夏の訪れを感じる季節となりました。1学期もいよいよ締めくくりの時期を迎えています。今月はじめ、台風による急な臨時休校の際には、迅速かつ冷静にご対応いただき心より感謝申し上げます。保護者の皆様の深いご理解とご協力のおかげで、子供たちの安全を最優先に動くことができました。



5年生
清里移動教室



6年生
日光移動教室

この1学期、子供たちは宿泊

行事や遠足、社会科見学など多くの経験を積みました。学校の外で社会や自然と触れ合う中で、仲間と協力する生き生きとした表情がたくさん見られました。また、話を聞くルールや集合の仕方など、行事での学びを日常に活かし、誰もが心地よく過ごせる空間を作ろうとする姿も見られます。子供たちは確実に一歩ずつ、自分らしさを発揮しながら成長しています。

一方で、集団行動が増える時期は、「きまりを守る難しさ」に直面する場面でもあります。自分の思い通りにいかない時や注意された時に、落ち込んだり感情を爆発させたりする「打たれ弱さ」が見られることもありました。近年、本校では「**子供たちのウェルビーイング(幸せ)の向上**」を最優先に掲げています。ここで言う「**幸せ**」とは、決して「何不自由なく、常に楽しい状態」だけではありません。ルールに窮屈さを感じたり、自分の過ちで周囲と衝突したりした時に、それをどう乗り越えるか。その葛藤のプロセスにこそ、**幸せの種**があります。

現代社会は、問題が起きるとすぐに外側に原因を求めたくなる風潮があります。しかし、変化の激しい時代を生き抜くために必要なのは、**他者を責める力ではなく「自分の足で立ち上**

がる力」です。ルールやマナーは、縛られるためのものではなく、**互いに心地よく過ごすための「思いやり」**です。失敗した時や叱られた時こそ、子供たちが主体的に考え、行動する最大のチャンスです。「なぜダメだったのか」を自省し、悔しさや責任を自分の課題として捉える経験が、心を強くします。「**次はどうするか**」を自分で、あるいは誰かと一緒に考えること。それこそが**本当の「たくましさ」**であり、**将来の持続可能な幸せへとつながる道**です。

1学期のまとめの時期、子供たちの成長に向けて有意義な時間を過ごさせてまいります。学校・保護者・地域が手を取り合い、子供たちが安心して成長し、たくましく立ち上がれる「武蔵野小学校」を共につくってまいりましょう。今月もどうぞよろしくお願いいたします。

【7月の生活目標:きまりをまもって生活しよう】

1学期の締めくくりとして、「**武蔵野小のきまり**」*を子供たちと再度確認し、落ち着いた生活を心掛けてまいります。また、夏休みの安心・安全な生活に向けた資料「**夏休みの過ごし方について**」を保護者会で配布いたします。長い休みを前に、ぜひご家庭でもお子様と一緒に内容をご確認ください。

*「**武蔵野小のきまり**」は学校 HP トップ画面からも確認いただけます。



人権の花を
植える2年生